

土地利用型

6 1 「高鮮度みちのく雪むろ米 つや姫」
集荷安定対策と産地ブランド化確立プロジェクト

事業実施主体：みちのく村山農業協同組合（村山市）

◆プロジェクトの概要

オリジナルブランド米である「高鮮度みちのく雪むろ米 つや姫」と通常つや姫の集荷施設を区分し、新たな荷受体制の構築を行うことで、作業効率の向上及び両つや姫の混入防止を行うとともに、更なるプレミアム感を創出し有利販売に転嫁することで、「高鮮度つや姫」の販路拡大及び産地ブランド化の確立を目指す。

◆具体的事業

H25: 大高根CE 荷受操作盤工事
大高根CE PLC工事

※全圃場に対する2度の葉色診断
※刈取前の玄米抽出によるタンパク値診断

◆創意工夫性

- 良食味圃場の選抜による「低タンパク米」つや姫
- 雪を活用した冷蔵庫「雪室」で貯蔵した新鮮なお米「雪むろ米」
- 高鮮度を実現する流通システム

◆事業の成果

①産出額の拡大

(H23年産米: 82,387千円→H25年産米: 122,508千円) [H28年産米目標: 160,288千円]

②収量の増加 (H23年産米: 7.4俵/10a→H26年産米: 8.7俵/10a) [H28年産米目標: 8.7俵/10a]

③「高鮮度つや姫」直売取扱の増加

(H23年産米: 0俵/0円→H25年産米: 61俵/1,567千円) [H28年産米目標: 200俵/4,400千円]

◆事業実施主体の声

当JAでは、県をあげた「つや姫」のブランド確立に呼応し、県の出荷基準（玄米粗タンパク質含有率7.5%乾物換算）よりもさらに厳しい独自の出荷基準（6.8%以下）を設け、当JA所有の雪室倉庫での保管管理と組み合わせ、高鮮度・極良食味のつや姫生産を進めています。

現在全国的に、高価格帯米と位置づけられるお米が増え、産地銘柄による販売が激化しておりますが、消費者のニーズは安定した品質の確保およびより安全で安心なお米を求めています。

この取組みを行うことで、村山市全体の産地ブランド化を推進し、高品質な良食味米の安定集荷を実現するとともに、地域農業の発展に寄与していきたいと考えます。



園芸

6 2 ねぎの生産拡大と秋の「紅寅」ブランド
立上げプロジェクト

事業実施主体：清水 寅（天童市）

◆プロジェクトの概要

農地集積によるねぎの生産拡大、需要に応じたねぎの提供により取引の増大を図り、また、「赤ねぎ」「赤根ほうれん草」を独自ブランド化することで産出額の拡大を目指す。

◆具体的事業

H25: 農作業小屋、育苗ハウス、
ねぎ皮むき機、栽培管理用機械の
整備

◆創意工夫性

- 生産拡大による市場取引の増大
- 需要に応じた商品の提供
- 「赤ねぎ」「赤根ほうれん草」の独自ブランド化

◆事業の成果

①産出額の増加 (H24: 20,000千円→H25: 39,416千円) [H29目標: 96,000千円]

②作付面積の拡大 (H24: 270a→H25: 600a) [H29目標: 1,260a]

③雇用の増加 (H24: 1,071人日→H25: 2,711人日) [H29目標: 6,250人日]

◆事業実施主体の声

農作業小屋、育苗ハウス、ねぎ皮むき機、栽培管理用機械を整備したことで作業効率が上がり、作付面積を拡大しながらも安定生産が可能となった。

また、「幻のほうれん草」など独自ブランドを確立し、全国から取引の依頼がきている状況である。

今後も更なる生産規模の拡大、ブランドの確立を図りながら、産出額の増大を目指していく。



土地利用型

6 3 紅花発酵酵素と籾殻灰ケイ酸使用による高付加価値米の生産拡大プロジェクト

事業実施主体：株式会社天心園（河北町）

◆プロジェクトの概要

ベニバナ発酵酵素と籾殻灰ケイ酸を使った有機肥料を使い、自家生産による水稲施肥を行い、現在よりも更に農薬と化学肥料を減らして、高付加価値米を生産する。

◆具体的事業

H25: 玄米色彩選別機等の購入

◆創意工夫性

- ベニバナ発酵酵素と籾殻灰ケイ酸を使った独自の有機肥料の生産・使用
- 独自有機肥料を活用した独自ブランドの確立と高付加価値化

◆事業の成果

- ①産出額の増加(H24:22,400千円 → H25:24,700千円)[H29目標:47,500千円]
- ②1俵あたりの平均単価の増加(H24:16,250円→H25:13,800円)[H29目標:16,770円]
- ③水田の経営面積(H24:8ha → H25:10ha) [H29目標:15.5ha]
- ④雇用の確保(H24:80人日 → H25:100人日)[H29目標:500人日]

◆事業実施主体の声

米価下落の影響が大きく1俵あたりの平均単価は下がってしまいましたが、水稲作付面積を増やすことで産出額も増加し、雇用にも結びつけることができました。

今後は、総合的病害虫・雑草管理(IPM)も実践しながら特別栽培米認証の比率を80%まで増やし、高単価での販売の拡大を目指します。



園芸

6 4 ラズベリーの高品質安定生産及び冷凍果実の周年供給による産地形成と雇用創出プロジェクト

事業実施主体：最上ラズベリー会（新庄市）

◆プロジェクトの概要

他県に先駆けた国産ラズベリーの産地確立に向け、生産者及び生産規模を拡大するとともに、豪雪地でも栽培可能な技術をいち早く導入し、雨除け施設等の整備や専門パッケージなど流通技術の独自開発をよって、高品質生産体制を確立する。併せて旺盛な加工需要に対応した周年農業を目指す。

◆具体的事業

- H25: 雨除け施設、予冷库、販売促進活動
- H26: 雨除け施設、予冷库、販売促進活動

◆創意工夫性

- 豪雪地でも栽培可能な技術の導入
- 雨除け施設、予冷库等による高品質生産と鮮度の高い出荷体制の確立
- 冷凍果実による周年供給の確立

◆事業の成果

- ①産出額の増加(H24:470千円→H25:1,170千円)[H29目標:14,500千円]
- ②ラズベリー生産量(H24:100kg→H25:567kg)[H29目標:5,000kg]

◆事業実施主体の声

最上ラズベリー会は、平成24年9月に設立し、地域活性化を目指しながらラズベリーを中心とした生産・販売・特産加工品開発などを行っている生産者の団体です。現在、会員は新庄市24名ほか金山町、鮭川村、舟形町の計36名がおり、収穫量5tを目標に取り組んでいます。

良質な生果実を数多くの方に知っていただくため、本事業において、雨除けテント・保冷库等を導入したほか、県内や首都圏の実需者の方に販促活動を行うことが出来ました。国産を求める方に丁寧な調整作業を知っていただき、販路拡大の自信が出てきたところです。より一層、生産体系や出荷体系を効率化し、より多くの方に「最上のラズベリー」を求めていただくよう会員一丸となって邁進いたします。



園芸

65 多面的流通による総合生産への
挑戦プロジェクト

事業実施主体：かねやま産直ねっと（金山町）

◆プロジェクトの概要

町内産直組織の連携により組織間の競争を回避し、それぞれが持つ強みやノウハウを活かした品目・製品（商品）の集中・専門化を進めることで生産効率を高め、地域資源であるニラやきゅうり、たらの芽等の多彩な野菜・山菜・きのこ類、「米の娘ぶた」を始め、これらを活用した農産加工品の生産・販売を拡大する。

◆具体的事業

H25:加工設備、農機具等の導入

◆創意工夫性

- 町内産直組織の連携
- 規格外の農産物・畜産物・水産物等を加えた加工品の開発・販売

◆事業の成果

- ①産出額の増加（H24:1,000千円→H25:10,639千円）〔H29目標:22,000千円〕
・栽培面積が拡大したことから予定（H25目標:3,000千円）を大きく上回る産出額を確保できた。
- ②雇用の増加（H24:50人日→H25:143人日（常勤含む））〔H29目標:1,100人日〕
※H25目標（150人日）に対し概ね達成しており、さらなる雇用創出に取り組んでいるところ。
- ③組織の生産物を活用した新たな商品開発が進められており、今後、町の特産品への発展が期待される。

◆事業実施主体の声

平成23年度に金山町の産直組織を一元化した組織として立ち上げ、本事業により施設・機械等を整備したことによって、農産加工品の生産・販売額が増大し、また、新たな雇用が創出されました。（販路拡大として、定期市「青空市」の開催や町外のイベントへ出展。）

「農と食による地域の魅力創造事業」により、町内の特産であるニラの規格外品の活用と、ブランド豚肉「米の娘ぶた」を活用した餃子の開発が進められており、当組織としても開発に必要な食材の生産を行っていくことで連携しながら、町全体で農畜産物の生産・加工（高付加価値化）などに取り組み、更なる新商品開発・販売を行っていきます。



○本事例集に関するお問い合わせ先

〒990-8570 山形市松波2丁目8-1

農林水産部農政企画課 農林水産業活性化担当

TEL:023-630-2383/2405 FAX:023-630-3096 E-MAIL:ynosei@pref.yamagata.jp

本事例集及び各プロジェクト計画、各年度の採択状況等は県ホームページに公開しています。